

共創から自分を変えていく



採用パンフレット

TOTAL SERVICE FOR CLIENTS

 Ohwa & Co.
應和監査法人

 agn
INTERNATIONAL

Member of
Allinial
GLOBAL[®]
An association of legally independent firms



CONTENTS

TOP MESSAGE	3
INTERVIEW	
シニアスタッフ(2年目) 米丸 千華	4
アソシエイト(3年目) 桶田 暁子	4
スタッフ(2年目) 増田 亘希	5
アソシエイト(1年目) 石井 杏実	5
應和の特徴	
IPO準備会社の監査に注力	6
より精度の高い監査を実現するためのIT活用	8
国際業務～国際部のある1日の様子を紹介～ ...	10
人材育成／研修制度	12
オフィス紹介	14
イベント	15

TOP MESSAGE

企業の健全な成長をサポートするプロフェッショナル集団へ

應和監査法人では、「公認会計士は、監査及び会計の専門家として、独立した立場において、財務書類その他の財務に関する情報の信頼性を確保することにより、会社等の公正な事業活動、投資者及び債権者の保護等を図り、もって国民経済の健全な発展に寄与する(公認会計士法1条)」を法人理念として、業務を通じ企業の健全な成長をサポートしていくことを目指しています。

所属している職員は、公認会計士に限定せず、ICTの専門家や会計の専門家、コンサルタントを目指す人たちなど、様々なバックグラウンドを持つ人たちが様々なプロフェッショナルを目指し、チームワークを発揮しながら毎日業務をしています。当然、職員が“目指すプロフェッショナル”になれるよう、法人内に研修制度を設け、日々のOJTや定期的なカウンセリングにより効果を十分に発揮できるよう人事制度を構築しています。

ICT環境については、監査業務の特性上、対面業務を原則としながらもVDI環境や独自の監査プログラムをベースとしたペーパーレス監査システムを導入し、効率的かつ効果的な監査マネジメントをしているほか、大手監査法人同様のセキュリティ体制を構築しています。そのほか、生産性や監査品質を高めるために人でやっていることを極力オートメーション化していくプロジェクトなど、中小監査法人における最適なICT環境を見据え、整備・運用をすすめています。

国際関連については、アソシエーションネットワークをベースとしたグローバルネットワークの構築に取り組み、従前加盟していたAGN Internationalに加え2023年にALLINIAL Globalにも加盟をしました。ALLINIAL Globalは約\$6,000Mの売上規模がありアソシエーションネットワークの中では第二位の規模で、毎年の国際会議を通じてお互いのナレッジやリレーションシップの向上をはかっています。この規模を活かすために加盟時より「国際部」を立ち上げ、他GAAPによるリファードワー

クを専門に実施する取り組みも始めています。

また、設立時より「マクロに物事の事実関係を適切に把握すること」そして「『指導的機能』と『批判的機能』の2つを両輪として監査を実施すること」をコンセプトにコミュニケーションを大切に業務に取り組んでおり、監査クライアントのグローバル市場やスタンダード市場などへの株式公開や法人規模の拡大を実現させています。

社会からの中小監査法人業界への期待やニーズは、近年非常に高くそして増え続けています。そのような中で、應和監査法人は、やみくもに急激な拡大を目指すのではなく、法人理念やコンセプトを大切にしながら、仲間とクライアントを大切に、みんなで“企業の健全な成長をサポートすることのできるプロフェッショナル集団”を目指していきたいと考えています。まだまだ道半ばではありますが、5年後、10年後を見据えて、みなさんとも実現にむけて一緒に仕事ができると嬉しいです!



総括代表社員 澤田昌輝

Interview

自分らしく働きキャリアを積む

公認会計士を目指し始めたのは高校一年生の時です。大学の附属校に入学したため、将来の職業について考える機会が多く、数学が得意で正義感が人一倍強い自分にはどんな仕事に向いているか考えました。そこで出会ったのが「公認会計士」です。担任の先生に相談したところ、OBで現在公認会計士として活躍されている方を紹介していただきました。OBの方がクライアントとなる企業と信頼関係を築きながら、監査を行っている姿に感銘を受け、自分もなりたいたいと思いました。

新卒で大手監査法人で4年間、監査の基礎を学んだ後、更に業務の幅を広げたいという思いとワークライフバランスを求め、應和監査法人へ。應和との出会いも、高校時代に知り合ったOBの公認会計士の先輩のおかげです。

應和は大手と異なり、監査の川上から川下まで自分で責任を持ってクライアントを担当します。会社の全体を把握するスキルを求められ、大変なことも多いですが、クライアントと密にコミュニケーションを取り、より良い企業の発展に監査人の立場から貢献できることに成長を感じます。

また、代表や上司と距離感が近く、アットホームでいつでも相談できることもありがたいです。

今後は、さらに業務の幅を広げて、企業との信頼関係を築き、安心して任せてもらえるような公認会計士としてステップアップしていきたいです。

またワークライフバランスを保ちながら、中堅としての目線を発信しつつ、長く働き続けていきたいです。



シニアスタッフ(2年目) 米丸千華

日々の業務が学びと成長の機会

應和の魅力は、会計士の資格をもっていないアソシエイトでも実際に監査業務に携われる点だと感じています。また、クライアントからはアソシエイトも専門家として見られるため、日々緊張感をもって業務に取り組むことができます。会計上の誤りを発見し、クライアントが決算書を修正した際は、私の業務が企業の持続可能な成長に貢献できていることを実感したとともに、責任感のある仕事であることを改めて感じました。

入所2年目では上場企業のほかに、初年度監査やIPO(株式公開)準備監査に携わりました。IPO準備監査は、上場企業の監査とは異なり、指導的機能やコンサルティングの視点が求められていると感じたため、クライアントと密にコミュニケーションをとることを心掛けました。IPO準備監査ならではの経験をするのもでき、クライアントが上場した際には大きな達成感を味わえました。

また、中小規模の監査法人であるため、自ら積極的に行動すれば様々なことにチャレンジでき、成長できる環境がありま

す。私は、海外子会社の工場往査に参加する機会をつかみ、会社理解を深めるとともに自分自身の視野を広げることができました。

日々の業務が新たな学びと成長の機会であり、豊富な経験と知識を持ち合わせている先輩方と働き学ぶことで、充実した毎日を送ることができています。今後も様々な業務に挑戦し、アソシエイトとして人として成長していきたいです。



アソシエイト(3年目) 桶田 暁子

1日の流れ (クライアント往査)

9:25	9:30	9:40	12:00	13:00	17:45	18:00
クライアント本社 1階で待ち合わせ	メールチェック	クライアント 担当者への質問、 監査調書作成	往査先の近くで チーム全員で ランチ	会社資料の閲覧、 データ分析	進捗の整理、 監査チームでの ミーティング	終業

Interview

成長を実感する2年目

應和では主に上場会社、株式公開(IPO)準備会社を含む様々な業種の企業に対して、質の高い会計監査を提供しています。そのような中、スタッフ(公認会計士試験合格者)は、個別の勘定科目や連結財務諸表に関する検討、監査調書の作成、計算書類や有価証券報告書などの開示原稿のチェック、確認状の回収・問い合わせ対応といった業務に従事します。

私は入所してから1年ほど経過しました。應和は中小規模の組織であり、成長することに最も適した環境であると感じています。例えば、大手監査法人に勤務した場合よりも早い段階から難易度の高い科目を担当する、株式公開(IPO)準備に向けた短期調査へ同行するといったことが挙げられます。会計監査の基準や専門書の読み込み、主査や業務執行社員の方々からの熱心な指導により、それらの業務をこなしていくことで、自らの成長を感じることができました。

また、スタッフ・アソシエイトを問わず、様々な経験を積まれた方、個性豊かな方が多く在籍しています。自分には無い視点

や考えに触れることができ、人間としても成長することができると感じています。

自らを成長させたいと考えている方、刺激のある毎日を過ごしたいと考えている方、共に働くことができる日を楽しみにしています。



スタッフ(2年目) 増田 亘希

会社貢献のために学びの毎日

私が主に担当している業務は、上場会社であるクライアントに訪問し、会社が計上した勘定科目の妥当性を検証、その検証内容を監査調書として文書化することです。作成した監査調書には自分のサインを記載するため、責任を感じるとともに、大きなやりがいを感じることもできます。

入社してまだ半年ほどですが、関与したクライアントは、上場会社、上場準備会社併せて12社となり、様々な経験を積むことができています。

監査法人は、クライアントごとに監査チームが組成されるという特徴をもっています。毎週、違うチームにアサインされるため、刺激的な毎日を送ることができています。應和監査法人では、新卒入社だけではなく、保険営業、不動産営業、税理士法人、大手監査法人(BIG4それぞれの経験者がいます)、飲食店勤務など様々なバックグラウンドを有している先輩が働いています。違う経験や価値観を持った先輩方から仕事を学ぶことができるのでとても勉強になっています。

会社の窓口は、部長や課長、役員など役席者の方が多く、

専門用語が多いため、戸惑うこともありますが、役席者の方とお話できる機会があるのもこの仕事の魅力だと感じています。

監査法人の使命は「国民経済の健全な発展に寄与」ですが、まずは自分のできることを増やし、チームや法人へ貢献できるよう、日々研鑽に励んでいきたいと考えています。



アソシエイト(1年目) 石井 杏実

1日の流れ (事務所作業の1日)

9:15	10:00	12:00	13:00	16:00	17:45
メールチェック	調書作成の 続きなどの調書フォロー	お弁当または、 事務所の近くでランチ	資料の準備、 担当科目の予習など	確認状など、 書類の整理	終業



應和の特徴

ABOUT US

IPO準備会社の監査に注力

應和監査法人の特徴としては、上場会社11社の監査を担当しており、それと同時に、IPO (Initial Public Offering、株式公開) 準備会社の監査にも注力していることが挙げられます。

應和監査法人は、大手監査法人で株式公開部門の立ち上げに携わり、20社以上の会社株式を公開させた経験を持つシニアパートナーにより2007年に設立されました。その後、上場会社の法定監査等を担当しつつ、IPO準備会社の監査にも注力していった結果、2020年6月にマザーズ市場 (現グロース市場) への株式上場を皮切りに、2023年3月にグロース市場に、2023年12月にスタンダード市場に上場を実現しました。現在、11社の上場会社の監査を担当しています。容器事業、学習塾事業、人材紹介事業、ジュエリー事業、ICT (情報通信技術) 事業、経営サポート事業、飲食事業、地盤解析事業、実演販売事業、半導体卸事業、化学品事業 (一例となります) と様々な業種があり、上場会社で培ったスキルや経験をIPO準備会社に還元していくことで、会社とともに、成長を実感することができる環境にあります。

会社がIPOを目指す目的は、資金調達が多様化や知名度

の向上、社会的信用の増大などといわれていますが、本質的な目的は、現在の会社が創業者の手を離れ、社会の公器として株式市場に巣立っていき、100年企業を目指して、承継と健全な成長を通じて持続可能な発展をしていくことであると考えています。ただ、IPOを目指す会社は、上場会社と比較した場合、決算報告体制が十分ではなく、また、内部統制の整備状況や運用状況に課題を抱えている会社やそもそも内部統制が構築されていない会社もあり、その課題を解消していく過程で、会社から質問や相談を受ける機会が多く、監査人としての「指導的機能」を発揮する機会が多々あります。現場では質問や相談に対して素早い判断を求められることも多く、判断力を身に付けられるよい機会になると考えています。IPO準備会社の監査は、上場会社の監査と比較した場合、違った意味合いのやりがいを感じることができます。また、会社という大きい単位の成長を直接的にサポートすることになります。会社をサポートということは働いている社員や経営をサポートすることにも繋がりますので、より大きな規模で貢献でき、達成感や充実感を大いに感じられる業務であると感じています。

應和監査法人では、入所してすぐのタイミングから、上場会社の監査を担当しつつ、IPO準備会社の監査にも関与する機会があることが魅力の一つです。会社にとっては初期の監査チームメンバーとなります。職位や立場は違っても皆で同じスタート位置から監査に参加しているため、会社についての知識は一番よく知っているという状況にもなることができ、主体性や積極性を持って仕事に取り組みやすい環境であると感じています。まずは雰囲気や作業内容はもちろんのこと、「批判的機能」に加えて、「指導的機能」が非常に重要であるこ

とを感じてもらいたいと考えています。若い年次から、上場会社の監査→IPO準備会社の監査→上場会社の監査を繰り返すことにより、上場会社の監査で会社のあるべき姿を学び、それをIPO準備会社の現場で生かしてもらおうとみなさんの大いなる成長に繋がると考えているため、IPO準備監査には新人でも積極的に関わってもらっていただいています。

IPO準備会社の監査を通じて、会社の成長をダイレクトに感じることで、やりがいや達成感を味わうとともに、自分自身のダイナミックな成長を実感してみませんか。



東京証券取引所 クライアントの上場セレモニーにて



人事部 兼 株式公開準備部 責任者 社員 堀 友善



應和の特徴 ABOUT US

より精度の高い監査を実現するためのIT活用

應和監査法人では、ITの専門人材からなる情報通信技術 (ICT) 部を設けています。

近年ではAIや自動化などITを幅広く利用する会社が多くなっています。監査クライアントも同じようにIT化が進んでおり、應和監査法人としてもITへの投資が重要課題と考えています。そのIT投資の一つとして、この規模では異例のITの専門部署を持つという取り組みを行っています。

應和監査法人では、クラウドサービスや電子調書ツールなどの大手監査法人が利用しているものと同様なITを利用して監査を行っています。このITの利用は、監査品質の維持・向上を目指しており、「監査クライアントのITの利用状況に対応した監査を適切に実施する」、「監査人が考え、監査クライアントへ指導する時間を確保するために作業効率を上げる」ことを目的としています。

情報通信技術 (ICT) 部ではITを利用するためのサポートも行っており、パソコンなどのトラブルやIT利用に関する不安を素早く解決出来る体制を整えています。

近年では自動化ツールの導入・開発に力を入れており、情報通信技術 (ICT) 部により随時開発を行っています。

従来人が行っていた単純な入力業務などの一部を自動化できるよう自動化ツールの導入・開発を進め、コンピューター

により自動で行える作業については自動化し、人間はクライアントとのコミュニケーションをとるなど、人間でしかできない監査業務を行い、より精度の高い監査を行えるようITの整備を図っています。

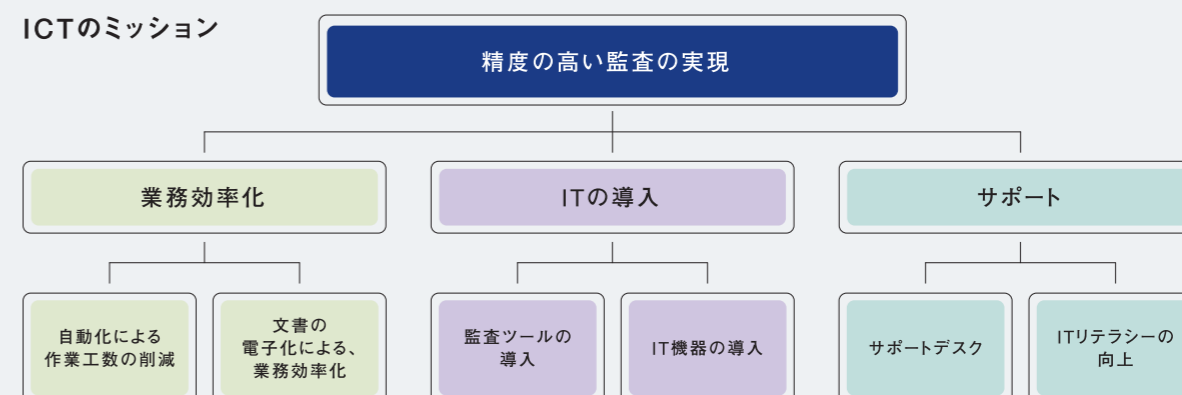
その他ペーパーレス化も進めており職員にサブモニターを貸与しています。従来は紙を利用した監査が主でしたが、監査クライアントもペーパーレスが多くなっていることから應和監査法人でもペーパーレスへの対応を進めています。ペーパーレスでの作業の場合ノートパソコンのモニターだけでは作業効率が悪くなるため、職員にはモバイルモニターの貸与を行う等、ペーパーレスでの監査に対応できる環境を構築しています。

情報通信技術 (ICT) 部ではシステム監査も担当しています。

実際に監査業務に携わることで現場での要求のキャッチアップが出来、業務効率化を図るきっかけにもなるため、監査業務も行っています。

その他、情報通信技術 (ICT) 部が主導のもと昨今のセキュリティ事故の事例を踏まえたセキュリティ研修を行っており、職員の情報セキュリティの意識向上を図っています。

ICTのミッション



左から 荒木博士、加藤 準、馬場祐一、沢 直宏



應和の特徴 ABOUT US

国際業務～国際部のある1日の様子を紹介～

今日も濃密で刺激的な1日が始まります…

朝9:00、始業と同時にNYのクライアント、現地監査人との打ち合わせで論点となっている会計処理の打合せ、日中はクライアントの日本法人へ往査、その後、夕方から新たなUKの営業先とのWeb会議…

そんな感じで毎日の国際業務が流れていきます。

應和監査法人では、海外の監査法人から委託を受けて、親会社が海外にある日本子会社の監査を実施しています。主に、親会社監査人からの指示に基づく監査です。これをリファード業務といいます。

リファード業務ではクライアントとの契約締結後、親会社監査人からの指示書（インストラクション）に基づき、監査計画を立案し、監査を実施し、監査証拠のとりまとめと意見形成を行います。この間に親会社監査人や親会社の担当役員と電話、メール、Web会議で頻繁にコミュニケーションします。コミュニケーション言語はもちろん英語です。また、財務諸表に適用される会計基準はIFRSやUS-GAAPであり、日本の会計基準との相違点をしっかり押さえていくことが必要になり

ます。

海外とのコミュニケーションにおいては、相手国のビジネス上の慣習や文化を念頭に置いて、しっかりとした成果が出るようにコミュニケーションしていく必要があります。日本では言いたいことを口に出さずとも心で通じることも多々あり、それを美徳ととらえることがあります。海外はそうはいきません。はっきりと明確に言葉で伝えて、しっかりと主張していく必要があります。ドメスティックな環境だけで仕事をしていると、時折面食らうこともありますが、この異文化コミュニケーションの体感こそが、国際業務の大きな魅力の一つです。この経験を通じて、一回り大きな人間になれるような気がします。

應和監査法人ではAllinial Global、AGN Internationalという2つのグローバルアソシエーションに加盟し、日々多くの業務の引き合いを受けています。海外企業や監査人からの應和監査法人へのサービスの期待の高さを毎日ひしひしと感じています。

こんな素敵なキャリアを積める應和監査法人の国際業務で共に成長を目指しませんか？ 一緒に頑張りましょう！

2023年CONFERENCE 参加の様子

～若手スタッフも同行しました～

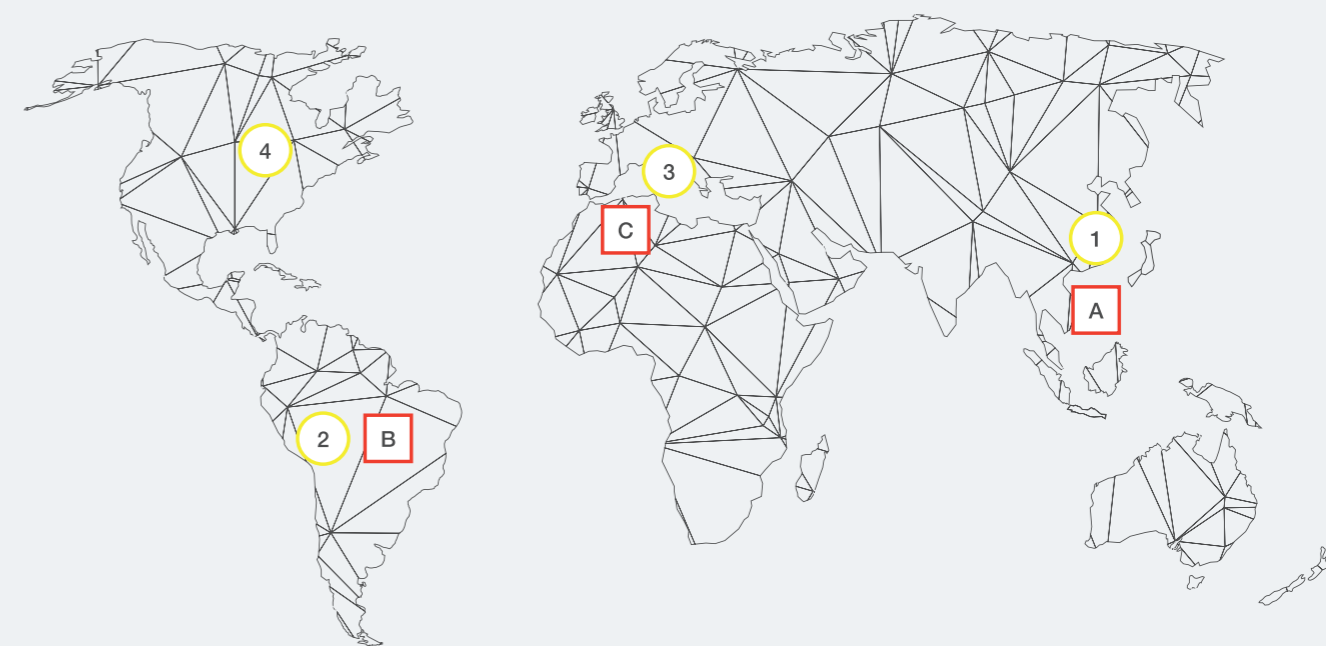


AGN INTERNATIONAL



ALLINIAL GLOBAL

Network (※)



世界80カ国、約200ファーム、約120,000人



1. ASIA PACIFIC

オーストラリア・バングラデシュ・中国・香港・インド・インドネシア・日本・韓国・マレーシア・シンガポール・ベトナム・タイ・台湾 and more...

2. CENTRAL & SOUTH AMERICA

アルゼンチン・ボリビア・チリ・パナマ・ブラジル・ペルー・ベネズエラ and more...

3. EUROPE, MIDDLE EAST & AFRICA

オランダ・ノルウェー・フランス・ドイツ・イタリア・ポルトガル・ギリシャ・イギリス・スペイン・ロシア・スウェーデン・スイス・エジプト・イスラエル・イラン・カタール・サウジアラビア and more...

4. NORTH AMERICA

アメリカ・カナダ・メキシコ

世界105カ国、約260ファーム、約310,000人



A. ASIA PACIFIC

オーストラリア・バングラデシュ・中国・インドネシア・日本・韓国・マレーシア・ニュージーランド・フィリピン・シンガポール・台湾、中華民国・タイ・ベトナム and more...

B. CENTRAL & SOUTH AMERICA

アルゼンチン・ブラジル・カナダ・ケイマン諸島・メキシコ・アメリカ・バーチン諸島 and more...

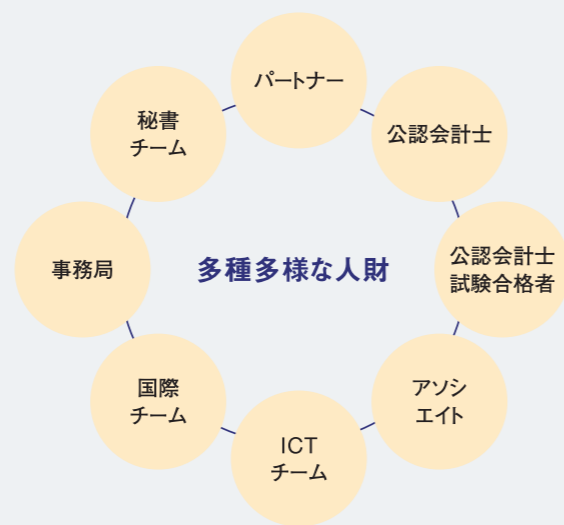
C. EMEIA (Europe, the Middle East, India, and Africa)

オーストリア・ベルギー・デンマーク・エジプト・フランス・ドイツ・インド・アイルランド・イスラエル・イタリア・オランダ・ナイジェリア・ノルウェー・ポーランド・ロシア連邦・サウジアラビア・南アフリカ・スペイン・スウェーデン・スイス・トルコ・アラブ首長国連邦・イギリス and more...



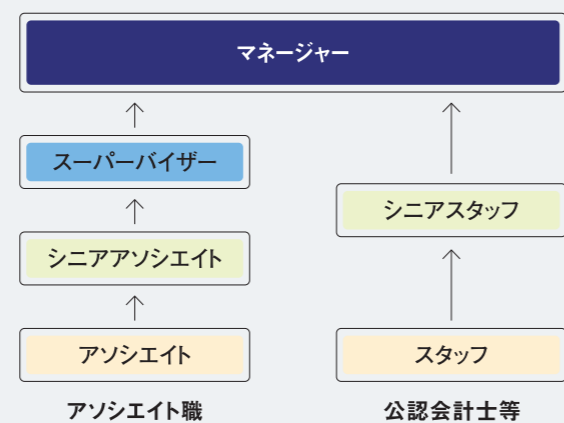
人財育成 / 研修制度

監査品質を維持・向上していくためには、優秀な人材を継続的に採用し、育成することが重要なことだと考えています。應和監査法人では、公認会計士資格の有無だけでなく、公認会計士の資格がなくとも、監査現場において必要となる様々なバックグラウンドを有する人材を採用し、お互い足りないところをサポートし合うほか、継続的に研修を実施していくことで監査品質を維持向上できると考えています。



アソシエイト制度の採用

近年、監査の担い手である公認会計士の監査離れが発生し、また監査クライアントにおいては、「新しいビジネスモデルの登場」、「広範囲にわたる高度なITの導入」、「サステナブルに対する開示」等、従前の公認会計士の基礎知識を超える変化が起きています。このような外部環境の変化と、様々なバックグラウンドを有する人が監査補助者をしている海外会計事務所での運用事例も考え、應和監査法人では、公認会計士資格がなくとも、大学等での学習履歴や簿記検定等での最低限の会計・監査のバックグラウンドを有する人をアソシエイトとして採用しています。アソシエイトは、データ更新等の監査のサポートだけでなく、キャリアに応じて監査補助業務を自ら実施できるよう研修・キャリア制度を設定しています。また、キャリアに応じて、様々な資格取得を推奨し、アソシエイト自身が監査補助業務経験を通じて、会計・監査業界で主体的にキャリア形成できるようにしています。



研修制度

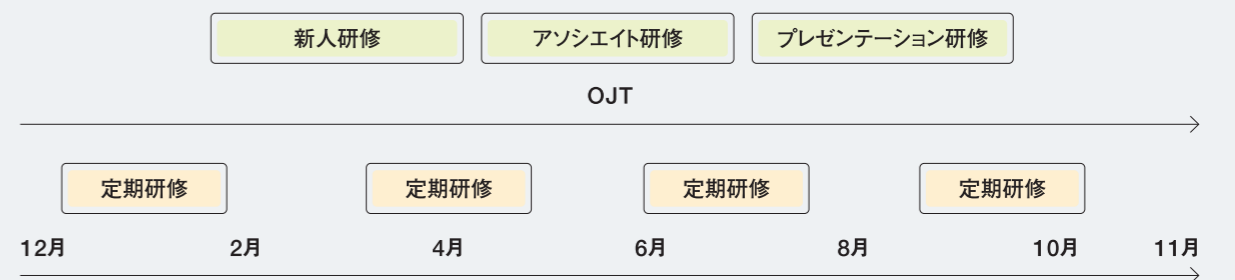
専門職員に必要とされる適正や能力を維持・向上させるためには、全ての専門職員が継続的に研修を受けることが重要と考え、様々な研修制度を設けています。

監査品質を維持・向上するために必要とされる適性、能力、経験および職業倫理を備えた職員を十分に確保するために、専門的知識・能力の習得、職業的専門家としての資質の醸成、および監査のマニュアルの有効な運用等に関して、CPD(継続的専門能力開発)として求められている必須研修分野を含めて年間40時間以上の全体研修を計画的に実施しています。また、専門職員のバックグラウンド別に、「新人研修プログラム」や「システム監査研修」、「内部統制研修」、「各勘定科目別研修」のほか、外部講師による「プレゼン研修」等も実施しています。研修は講義形式に加えて、資格・職位横断的なグループによるディスカッションを行い、発表・

共有する形式で実施することで、知識の定着はもちろんのこと、プレゼン能力やコミュニケーション能力の向上を図っています。

また、研修で学んだことを監査現場において実践・定着させる「OJT」を重視しており、往査前後には、必ず監査チームにてミーティングを実施しています。往査前には、主査より当該トピックス、重点項目・割当等について事前に共有・徹底し、往査後は各自反省点を次回に生かせるようチームでミーティングを行い、各自の成長を促しています。

さらに、アソシエイトについては月2回会計・監査について学びたい内容を挙げ「アソシエイト研修」を実施する等、さらなる知識の習得・定着の機会を設け、監査現場でのOJTと相乗効果になるように計画的に研修を実施しています。



また、年間を通じて、各役職または年次に求められている要求事項と比較して各監査現場で業務状況を確認し、最低年2回のカウンセリングを全専門職員に対して実施、加えて、パートナーや上長である職員による業務評価を実施しています。

若い年次から應和監査法人が加盟しているグローバルアソシエーションであるAGNやAllinialが実施しているカンファレ

ンスや海外往査(ベトナム、香港、マレーシアなど)、若手育成プログラム(AGNが主催する研修で、各国の事務所の若手4名程度が共通のお題に対し英語でプレゼンをする。優勝したグループは次回のカンファレンスに無料で招待される。)に参加できる機会などもあり、手を挙げれば様々なことにチャレンジできる環境があります。

Our Office

～オフィス紹介～



Event

應和では数々のイベントを通してスタッフ間のコミュニケーションを密にとっています。コミュニケーションが活性化することで”ほう・れん・そう”のしやすい職場環境になり業務効率も上がると考えています。

4月 新入所職員歓迎会 & お花見

7月 繁忙期お疲れ様会

10月 BBQ

市場で海鮮食材を調達しすぐ焼いて食べるのが最高です。熟成牛や仙台の牛タン、秋の豪華食材である松茸も取り寄せ食材にとことんこだわります。



12月

忘年会・納会 大掃除

1年を締めくくる忘年会。グループ法人全体が参加する大きなイベントです。ゲーム大会では豪華景品を沢山用意、大掃除も皆で協力して行います。



1月 御祈禱と新年会



應和監査法人

tel: 03-6848-6025 fax: 03-6848-6027
e-mail: info@ohwa-audit.co.jp
〒101-0051 東京都千代田区神田
神保町1-105 神保町三井ビルディング



〈應和グループ〉

應和税理士法人
tel: 03-6275-0245 fax: 03-6275-0246
e-mail: info@ohwa-tax.or.jp

應和ビジネスアドバイザー株式会社
tel: 03-6275-0247
e-mail: info@ohwa-ba.co.jp

株式会社SMEサポート
tel: 03-6275-0247

應和社会保険労務士事務所
tel: 03-6275-0245
e-mail: ohwa-hr@ohwa-tax.or.jp

弁護士法人 直 法律事務所
tel: 03-6256-8925 fax: 03-6256-8926
URL: <https://nao-lawoffice.jp/>
e-mail: info@nao-lawoffice.jp
〒102-0093 東京都千代田区平河町2-7-4
砂防会館別館B棟5階

(注) 應和グループの各法人はすべて独立した法人であり、公認会計士法上のネットワークファームではありません。